

事務事業 No./名称		■サービス部門 生涯-16 公開宣伝事業			タイムスコード及び個別事業名		
主管課		文化財課	関連課	鎌倉国宝館、世界遺産登録推進担当	171	公開宣伝事業	
分野名		歴史環境					
目標 (目標値)		文化財愛護の精神の高揚を図り、文化財を保護・保存及び公開・活用を推進する。					
人口等のデータ	データ区分	21年度	20年度	備考			
	人口	176,669人	176,484人	・各年4月1日 (住民基本台帳)			
	世帯数	78,131世帯	77,430世帯				
運営資源状況	決算値	676千円	725千円		指標と評価		
	(国・県)				指標	鎌倉市遺跡調査・研究発表会	
	(負担金等)				評価	◎	
	(一般財源)	676千円	725千円		◎目標を達成 ○目標に向かって前進 △横ばい ×後退		
	人員配置数	0.5人	0.5人			目標値	実績値
	人件費	4,813千円	4,749千円		20年度	280人	280人
	協働のパートナー				21年度	280人	280人
事務事業運営経費	総事業費	5,489千円	5,474千円		22年度	280人	
	市民1人当りの経費	31円	31円		23年度	280人	
	対象者1人当りの経費				最終年度(25年度)	840人	
ベンチマーク(県内外自治体や民間団体との比較値)	団体名						
	国・県指定文化財数						
	市町村指定文化財数						
創意・工夫・課題等改善状況	課題・問題点	(21年度事務事業を実施するうえでの課題・問題点は、どのようなことでしたか) (1)郷土芸能保存団体の構成員の高齢化による後継者育成。 (2)文化財総合情報システムの構築。 (3)インターネットホームページの充実。					
	創意・工夫・課題等の改善点 21年度の成果	(課題・問題点についてどのような創意工夫、改善をしましたか。また、どのような成果がありましたか) (2)文化財総合情報システム構築を行った。					
	未解決の課題・問題点	(21年度事務事業の取組において対応(解決)できなかったものはどのようなことですか) (1)郷土芸能の保存団体の一部で構成員の高齢化が著しく後継者が不足しており、公開の場である郷土芸能大会への参加も困難な状況である。このままの状態では消滅する可能性もある。 (2)文化財総合システムの公開に向けたシステム構築及びデータの入力。 (3)インターネットホームページの充実を図り、文化財の啓発に取り組みなければならない。					
	今後の方針(対応・改善)	(上記対応できなかった課題・問題点について今後どのように対応(改善)していきますか) (1)郷土芸能保存協会と連携し、郷土芸能の保存・後継者育成に取り組んでいかなければならない。また、記録保存にも取り組まなければならない。 (2)文化財総合システムの公開に取り組む。 (3)インターネットホームページの充実に取り組む。					
一次評価(課長評価)				二次評価(部長評価)			
A:充実又は拡大 B:現状のまま継続 C:統合又は縮小 D:廃止又は休止 E:事業完了							
評価結果	改善の必要性	貴重な市民の財産である文化財について、広く周知していくことが保護の目的でもあることから、公開・活用を充実していく必要がある。			評価結果	改善の必要性	文化財は、歴史を知る上で貴重な財産であり、後世に伝えていかなければならない。文化財を広く紹介し、理解を深めることで文化財愛護の精神を高揚することも必要であり、種々の公開宣伝事業の充実を図っていかなければならない。
A	有				A	有	
課長名		永井 正 憲			部名・部長名		植松 芳子